

整形外科

1. 研修責任者

研修責任者: 山田 宏

研修医へのメッセージ

整形外科は脊椎脊髄外科、関節外科、手の外科、骨・軟部腫瘍、小児整形外科など運動器全般を扱います。腰痛、肩こり、四肢関節痛は国民の主要な健康問題であり、整形外科の正しい理解と適切なプライマリ・ケアの修得は、一般臨床医としての社会貢献に欠かせません。当科では各分野の整形外科専門医が指導を行い、運動器疾患・外傷の診療技能を習得し、患者とその家族への思いやりを養うことを目標とします。

2. 一般目標(GIO)

運動器および外傷の診療能力を習得し、適切な診断・治療を行えるようになること。

- ・ 救急医療における運動器外傷への対応能力を養う。
- ・ 慢性疾患の診断・治療に関する知識と技能を修得する。
- ・ 運動器疾患の適切な診察法および基本手技を習得する。
- ・ チーム医療の重要性を理解し、医療スタッフと連携できる能力を身につける。

3. 行動目標(SBOs)

救急医療

1. 骨折を疑った場合に適切な X 線検査を指示できる。
2. 関節感染症の症状を説明できる。
3. 脊髄損傷の診察ができる。
4. 骨折の全身的・局所的合併症を理解し説明できる。
5. 開放骨折の診断と重症度の判断ができる。
6. 神経学的診察を行い、麻痺の高位を診断できる。
7. X 線、CT、MRI の読影技術を習得する。
8. 骨折の応急固定および牽引法を実施できる。
9. 簡単な骨折・脱臼(肘内障を含む)の徒手整復ができる。

慢性疾患

1. 変性疾患、関節リウマチ、骨粗鬆症、骨・軟部腫瘍などの病態を理解する。
2. 各種画像検査(X 線、CT、MRI)の解釈ができる。
3. 関節鏡検査、脊椎内視鏡手術の適応を理解する。
4. 理学療法処方の理解し、適切に指示できる。
5. 手術後の運動療法の重要性を理解し、適切に処方できる。

4. 方略(LS)

- ・ 指導医のもとで外来診療、病棟診療、手術を経験する。
- ・ 週 1 回の抄読会、症例検討会に参加し、知識を深める。
- ・ 救急当直の研修を通じて、初期対応能力を強化する。
- ・ チーム医療の実践を学び、多職種との連携を深める。

5. 週間スケジュール

曜日	午前	午後
月曜	朝会・教授回診・外来	病棟・検査
火曜	抄読会・朝会・外来	病棟
水曜	抄読会・朝会・手術	手術または病棟
木曜	症例検討・外来	症例検討
金曜	抄読会・朝会・手術	手術または病棟
土曜	自由研修	自由研修

- ・ 指導医とともに週 1 回程度、救急外来医療(夜間を含む)を経験する。

6. 評価方法(Ev)

1. 知識
 - 症例検討会や回診で適宜質問を行い、知識の習得状況を確認する。
2. 技能
 - 指導医のもとで各種手技を実施し、習熟度を評価する。
3. 態度
 - 指導医や医療スタッフから意見を聴取し、医師としての適切な態度を評価する。
4. 記録能力
 - 診療記録が適切に記載されているか確認する。
5. 総合評価
 - 研修終了時に、総合的な評価を行い、修了認定を行う。